

1 学校教育目標
心身を鍛え 節度を重んじ 知能を磨き 徳性を涵養し 国家社会の有為な形成者を育成する

2 本年度の重点目標
1 生徒指導の充実 (生活習慣の確立, 規範意識の醸成, 自己効力感の向上, 職員間連携)
2 学習指導の充実 (教科の専門性の向上, 実践的授業力の向上, 自学力の育成)
3 進路指導の充実 (系統的指導の充実, 自己実現のための基盤づくり)
4 学校環境の整備 (物的環境の整備, 人的環境の整備)
5 豊かな人間性の涵養 (個性の伸長, 多様性の理解と共生, 読書の習慣化)

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校改革の推進	本校教育に対する生徒・保護者の満足度の向上	評価アンケート「入学に関する意識項目」上位評価割合80%以上[生徒], 80%以上[保護者]	・各分掌部, 学年, 管理職間のコミュニケーションによるチームワークの向上 ・職員間の学び合いの機会の増加と各種指導力の向上	B	評価アンケート「入学に関する意識項目」上位評価割合が生徒は 82%, 保護者のそれは 88%となり, 生徒保護者の満足度は向上した。今後とも職員間のコミュニケーションを密にして, チームとして生徒の指導に当たり満足度向上に努めたい。
	業務改善・働き方改革	業務の適正化	時間外勤務の縮減 (目標値: 前年同月比超過勤務時間平均の 2%減/全体)	・ノー残業デーの徹底 ・超過勤務時間の削減目標の設定 ・業務の整理, 削減	B	昨年度より導入した自動採点システムにより, 採点にかかる時間が着実に削減されている。今年度からノー残業デーを設けたが, 職員全体に十分浸透するまでには至っていない。職員への啓発を引き続き行っていきたい。今後も業務の見直しを図り, 生徒と向き合う時間の確保に努める。
	開かれた学校づくり	本校教育に対する保護者の理解, 関心の向上	評価アンケート「学校, 家庭の連携, 意思疎通に関する意識項目」上位評価割合 90%以上[保護者]	・生徒配付端末及び連絡システムを活用した学校, 生徒, 保護者 3 者間の情報共有と連携推進	B	評価アンケート「学校, 家庭の連携, 意思疎通に関する意識項目」上位評価割合の調査結果は, 84%でわずかに目標達成には至らなかったが, 昨年度から 2%伸びている。今年度は保護者連絡用アプリ「すぐる」が導入された。これ

		本校教育に対する地域住民、中学校生徒・保護者の理解、関心の向上	評価アンケート「保護者・地域及び中学校への情報発信」上位評価割合90%以上[保護者 各学年]、「生徒・地域及び中学校への情報発信」上位評価割合90%[生徒] 前期（特色）選抜及び後期（一般）選抜出願時の募集定員の充足	・学校HPの閲覧数の増加 ・学校案内、東稜ニュースの発行と配付 ・中学校の先生方への複数回の学校説明・学校説明チラシの複数回配付	B	らの利便性を周知し、更なる数値改善を図る。 評価アンケート「保護者・地域及び中学校への情報発信」上位評価割合の調査結果は、生徒88%、保護者84%で、わずかに目標達成には至らなかった。一方で、前期（特色）選抜の出願時の倍率が約2倍、後期（一般）選抜の倍率が1.5倍となり、目標を大きく上回った。今後もあらゆる媒体を駆使しての漏れの無い丁寧な情報提供を研究する。
学力向上 キャリア教育 (進路指導)	授業を主体とした学力向上の取組 自学力の醸成	授業改善と授業の充実（各教科共通の授業技術と教科の専門性の向上）	評価アンケート「授業に関する評価項目」最上位評価割合20%以上[生徒]	・東稜スタンダードの活用とブラッシュアップ ・公開授業の厳格かつ効率的実施 ・生徒授業評価アンケートデータ、職員の授業相互評価データ、学習時間データ、成績データなどのクロス分析	B	授業に関する評価項目「1」の最上位評価割合は27%であった。次の「概ね当てはまる」の項目も合わせると92%が肯定的な回答となった。研究企画兼情報管理部のリーダーシップで進んだ授業のICT化の成果だと考える。来年度、新教育課程完全移行に伴って、また新たな視点からアプローチしていきたい。
		生徒自らが学ぶ姿勢の確立及び学びの力の向上	家庭学習時間の増加（目標値：全学年過去5年間の平均宅習時間当該学年比5%増加）	・タブレット端末を利用した家庭学習時間調査による学習状況の把握と調査結果の活用 ・タブレット端末での課題の配信や集計等、利活用促進による学習の効率化	C	1年生で31.8%減、2年生で21.1%減、3年生で11.4%減、という結果であった。特に1・2年生は過去5年間でも最低の値となり、危機的状況だと言える。スマホ等の利用時間増によるところが大きい。今年度から朝課外がなくなったこととの因果関係等も含めて分析し、早急に手を打つ必

						要がある。
	キャリア教育の充実 進路目標の達成	キャリア意識の向上と積極的な体験学習への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はインターンシップを実施予定。 ・オープンキャンパスへの積極的参加を促すとともに、体験学習を行うことで進路意識の向上を図る。 <p>目標は、学校評価アンケート「進路意識、進路活動、職員への進路相談」上位評価割合75%以上[生徒・職員]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの積極的な参加の推奨 ・オープンキャンパスの広報と積極的参加の推奨 ・東稜大学・キャリアアップセミナーの実施 ・総合的な探究の時間において大学探究や課題探究により進路学習の充実を図り、進路に対して自己決定できる力を育成 ・進路諸活動記録のポートフォリオ化の検討 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・8月後半にインターンシップを実施、76の事業所に225名が参加した ・オープンキャンパスに関しては情報を適宜紹介し夏休みを利用して参加するように促した ・東稜大学・キャリアアップセミナーともに実施できた。東稜大学については例年通り12の講座を設けることができ、昨年度よりは対面での講義も増加した ・学校評価アンケート進路意識、職員への相談」については、進路のしおり等の活用が1年生で73%、2年生で80%、3年生で81%であり、進路についての自発的探究は3年生が86%、2年生が65%、1年生が53%と1・2年生はまだ低い ・学年が上がるにつれ意識は高まるが、1・2年次の意識の向上が今後の課題といえる。
		生徒を集団と捉える指導と個に応じた組織的な進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・熊大等の進学者を複数出すことと国公立大合格50名以上 ・熊大等の国公立大学や難関私大の合格3名以上 ・県内国公立大学合格23名以上（熊本大学3名以上、熊本県立大学20名以上） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望、適性等について分析会などを開催し、職員間の共通理解を図るとともに指導体制を整える ・進路行事の精選、特別講座において、時間割やクラス編成を工夫した効果的な実践 ・各学年部と進路指導部の 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・7月と12月に進路検討会を実施・マーク式の模擬試験については自己採点結果を集計し速報資料として関係部署に配付、成績データ到着後は過年度・過去回・他校比較を作成各教科の分析も行い改善を図った。 ・進路行事については昨年度までを踏襲する形にとどまり精選するまでには至らなかった ・進学について、現段階では国公立

				先生方との連携により、数年先を見越した生徒の学力保障 ・二者面談、三者面談の充実		合格者は6名、広島1名、関西外語大1名、同志社大1名、東洋大2名、国公立大出願は終了し、個別試験に向け特別授業を実施している。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立 情報モラル教育・デジタルシチズンシップ教育の充実	東稜高校5つの行動目標を基本とした生活習慣の習得	・評価アンケート[生徒]⑭「服装・挨拶」⑮「掃除」⑯「公共物」⑰「言葉遣い」各項目の最上位評価割合70%以上 ・⑪「運動、勉強」項目の最上位評価割合50%以上 ・評価アンケート[職員]⑩「生活指導」項目の最上位評価割合35%以上	・部活動時間確保、下校時間の定着、家庭でのスマホ利用の改善 ・服装頭髪指導、交通指導、校則指導の徹底 ・全職員の共通理解を図り、すべての教育活動での指導の徹底	C	評価アンケート[生徒]では⑪⑭⑮⑯のすべてにおいて目標値を下回った。特に⑭「服装・挨拶」項目では39%であり低い値であった。基本的な生活習慣の指導が徹底できていないことを表している。学校生活におけるあらゆる場面、全教職員での指導の徹底が求められる。⑪「運動、勉強」項目は32%であった。学習習慣が定着していないことが原因と考えられ、その要因としてスマホの利用が考えられる。今後も各部署と連携を図り、継続的にしどうしていく必要がある。
		・スマートフォンの適切な使用(使用時間含む)	・平日のスマホ使用時間1時間未満の生徒の増加(目標値:全校生徒の30%以上)	・情報モラル教室、職員研修の実施 ・スマホダイエットの実施(研情部と生安部の連携) ・実態調査アンケートの実施		2学期期末考査後の平日のスマホ利用時間1時間未満生徒の割合は全体で34.9%であり目標値を上回った。評価アンケート「情報モラル教育の充実」上位評価割合の生徒調査結果は、94%と高い数値となり、生徒への意識付けは十分に出来たものと判断出来る。今後もデジタルシチズンシップ教育、スマホダイエットの実施、スマホ通信の発行、職員への関連情報の提供など研究企画兼情報管理

						部と連携をとりながら活動を愚直に続けていく。スマホによる生徒への甚大な不利益は一人として許されない。一人も取り残さない指導が肝要となる。100%を目指して今後も各部署と連携をとり総合的な取り組みを行う。実態調査については、生徒の利益となるように、適時性を図り実施したい。
	交通安全教育の推進	・不適切な使用で起こる危険性の理解と回避方向の習得	・校内での不適切な使用で指導される生徒数の学年進行での減少	・研情部と生 安 部 の 連 携 による対策 (スマホ通信の発行等) ・外部機関との連携によるデジタルシチズンシップ教育の実施)	A	2学期期末考査後の平日のスマホ利用時間1時間未満生徒の割合は全体で34.9%であり目標値を上回った。評価アンケート「情報モラル教育の充実」上位評価割合の生徒調査結果は、94%と高い数値となり、生徒への意識付けは十分に出来たものと判断出来る。今後もデジタルシチズンシップ教育、スマホダイエットの実施、スマホ通信の発行、職員への関連情報の提供など研究企画兼情報管理部と連携をとりながら活動を愚直に続けていく。スマホによる生徒への甚大な不利益は一人として許されない。一人も取り残さない指導が肝要となる。100%を目指して今後も各部署と連携をとり総合的な取り組みを行う。実態調査については、生徒の利益となるように、適時性を図り実施したい。
		・交通法規の遵	・交通事故件	・危険箇所で	C	交通事故は47件

		守及びマナーの育成	数の削減（目標値：年間30件未満） ・評価アンケート[生徒]⑩ 「交通ルール」項目の最上位評価割合75%以上[生徒] ・評価アンケート[保護者]⑬「交通ルール」項目の最上位評価割合35%以上	の交通指導の充実 ・交通講話の計画・実施 ・交通委員会活動の充実		（自損事故を含む）発生。件数としては前年度（35件）から増加。救急搬送された事故も発生している。交通マナー等に関して外部から厳しい声も多い現状が続いている。 ・評価アンケートでは生徒は61%が最上位割合を示しているが、保護者は11%と低い割合となっている。保護者の意見が地域から見ると本校生の交通マナーを表していると思われる。事故を未然に防ぐ啓発的指導とあわせ、登校指導等、現場での指導を行う必要がある。
人権教育の推進 いじめの防止等	主体的な生徒会活動の推進 人権尊重の精神に立った学校づくり	・学校行事、各種委員会活動への積極的参加	・生徒会を中心とした生徒主体の取組の確立	・生徒会、各種委員会活動の充実 ・生徒総会の実施 ・生徒会・各種委員長研修会の実施	B	・体育大会、文化祭、クラスマッチ等の学校行事において企画、運営に尽力した。 ・生徒総会も開催し、校則の見直しや制服の追加アイテムの検討をおこなった。
		知的理解を深め 人権感覚を育成する指導の推進	・教職員の基本的認識の深化と実践的指導力の向上 評価アンケート⑭「HR、授業にける人権教育指導」上位評価割合95%以上[職員] ・生徒の知的理解と人権感覚の向上 評価アンケート⑯「人権教育における学び」上位評価割合90%以上[生徒]	・人権教育職員研修の実施 ・いじめ防止職員研修の実施 ・男女共同参画をテーマにした職員研修の実施 ・教職員の振り返りチェックの実施 ・人権教育LHRの実施 ・「人権だより」の発行 ・人権が尊重される授業づくりの推進	A	各種研修の実施により職員の基本的認識と実践力の向上がはかられたことにより、上位評価割合は95.8%で、目標を達成することができた。また、人権教育LHRや人権が尊重される授業が実践されたことで生徒の知的理解が深まり、人権感覚が涵養された。上位評価割合は、93%と目標を達成することができた。
	人としての在り方	互いを尊重し、良好な人間関係	・人間関係の課題を受容	・生徒の交流を促す生徒会	C	上位評価割合は91%で目標を達成で

	・生き方に対する自覚の深化 命を大切に する心を育む指導	を構築するための生徒の意識の向上	し、協働で解決する能力を備えた集団の育成 評価アンケート⑩「クラス雰囲気 有意義な学校生活」上位評価割合93%以上[生徒]	を中心とした学校行事の実施 ・SST（ソーシャルスキルトレーニング）の実施 ・SOSの出し方に関する教育LHRの実施 ・人権教育講演会の実施		きなかった。年度当初に予定していたSST実施の遅れが、クラスの人間関係構築に影響したと思われる。次年度は計画を見直して、目標の達成に努めたい。
		心のきずなを深める教育の充実	生徒の自他を大切にする心の涵養 評価アンケート⑩「クラス雰囲気 有意義な学校生活」の上位評価割合93%以上[生徒]	・いじめ防止教育LHRの実施 ・心のきずなを深めるための標語作品の募集 ・心のきずなを深めるための標語優秀作品の紹介	C	いじめ防止教育LHRは1年生入学後の早い時期に実施し、心のきずなを深める標語を、全校生徒に呼びかけ作品作りに取り組ませたが、上位評価割合は91%で目標を達成できなかった。日頃から自他の大切さや命の尊さを地道に訴えていきたい。
地域連携（コミュニティ・スクールなど）	防災教育	いじめの未然防止及び早期発見・早期解消	評価アンケート「いじめにあった経験」経験ありの割合15%未満[生徒]	・心のアンケートの実施（年3回） ・いじめの未然防止に関する「人権だより」発行による啓発 ・いじめを訴えた生徒の把握と迅速な対応	B	「いじめにあった経験あり」の割合は13%で目標を達成することができた。さらに数値の減少に努めたい。いじめ事案に対しては即座にチーム会議を開き、職員の共通理解を図り、組織的対応をとることで解消につなげることができた。
		生徒・保護者・職員の防災に対する意識の向上	評価アンケート「防災教育の積極的な実施」上位評価割合95%[生徒]、93%[保護者]、83%[職員]の維持	・防災通信2回発行 ・生徒防災委員会の定期的活動 ・防災LHRの各学年職員と生徒防災委員の事前研修の実施	A	防災通信第2号は、各クラスの注意点を別刷りして配付した。生徒向けが中心で、保護者への発信力に欠けたのが課題。防災教育は生徒主体で行った。
	学校運営協議会	防災教育・避難訓練の内容の充実	評価アンケート「災害時の適切な行動の理解」上位評価割合95%[生徒]、85%[職員]の着実な維持	・防災教育・避難訓練の内容・方法の再検討（車椅子の生徒の避難訓練を実施）	B	避難訓練はより実践的な訓練を企図したが、外部への連絡等が不足しており、従来の形にとどまったのが反省点。放送機器の

						トラブルがあり、むしろ課題が浮き彫りとなった。来年度は状況を変え複数回実施する。
		本校の教育活動について協議し、提言を行う	・学校評価についての審議 ・探究学習についての審議	・協議会の委員については、地域代表・地域中学校長・有識者・保護者代表・本校校長	B	探究学習については、計画を立て進めることができています。今年度は外部の発表会にも積極的に参加することができた。
コースの特色 生徒理解・教育相談・特別支援教育	国際コース 理数コース	語学や異国文化、国際的関心の深化	評価アンケート「国際コースの特色を活かした授業や活動の実施」上位評価割合80%以上[国際コース生徒・保護者]	・台湾永平高級中学校の生徒とのオンラインによる交流やオーストラリアのタタチラ高校の生徒との生の交流 ・各種研修プログラムの活用 ・資格試験の受験奨励及び対策	B	9月にタタチラ高校が、10月に永平高校が本校を来訪し、ホストファミリーの生徒達だけでなく、他の生徒達にも大きな影響を与えるほど盛り上がりを見せた。ただ資格試験への受験者数が思っていたよりも伸びなかった。来年度は各種検定への受験者を増やし、合格者の数も増やしたい。
		自然科学や社会における産業技術等への探究	評価アンケート「理数コースの特色を活かした授業や活動の実施」上位評価割合80%以上[生徒・保護者]	・学校設定科目「科学研究」の充実 ・高大接続の促進 ・大学の出前講義等による科学への興味や関心の高揚 ・科学系コンテストや研究発表会、数学検定等への参加の奨励	A	・科学研究の充実を心がけた。生物班は、熊本県理数科発表会に出場し、優秀賞を受賞した。また、KSH学びの祭典のポスター発表にも出展し、研究を深めることができた。別の研究で、熊本県生徒理科発表会にも出展した。高大接続班は崇城大学ナノサイエンス学科黒岩敬太教授の研究室を訪問し、化粧水の成分分析を行った。研究成果をポスターにまとめ、KSH学びの祭典のポスター発表に出展した。物理班、数学班、爪楊枝タワーコンテストに出場した。いずれの学習者も意欲的に取り組んだ。

						<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスキャンプ(大学・企業見学)などの体験型研修を実施し、アンケート回答から参加者の学習効果が高かったことが窺えた。 ・九州博物館(有識者)研究員による講演は、学習者に好評で、来年度は理数コースに加えて、学年で参加する規模のキャリア講演会に拡大する予定である。 ・参加者アンケートを踏まえて、来年度の学習計画を進行している。
	生徒の理解および支援の充実	生徒理解に係る職員間の連携強化及び支援充実	評価アンケート「生徒理解のための職員間の連携」上位評価割合90%以上[職員]	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する生徒について、担任・学年主任・教科担任・部活動顧問・関係職員・保健室から情報の収集と共有 ・支援対象生徒に関わるケース会議の開催、支援策の検討及び支援の実施 	A	<p>情報収集や情報共有に努め、生徒理解が深まり、職員間の連携が強化されたことで上位評価の目標を達成することができた。また、支援を要する生徒に対する合理的配慮や教育的支援も充実させることができた。</p>
		教育相談や特別支援教育に関する教員の資質向上	評価アンケート⑩「支援や配慮を要する生徒に係る研修」上位評価割合90%以上[職員]	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の校内研修の実施 ・校外研修の案内の周知、受講の促進、研修内容の共有 ・個別的教育支援計画の作成と計画に基づいた支援の実施 	A	<p>校内研修の実施や校外の研修内容の共有、個別的教育支援計画作成と計画に基づいた支援の実施により職員の資質が向上し、上位評価の目標を達成することができた。</p>
健康教育	生活習慣の確立 心身の健康や安全に関する十分な指導	特に、食生活において三食摂取し、バランスのよい食生活を心がけているか。	評価アンケート「朝食の摂取と食生活のバランス」上位評価割合90%以上[生徒] 評価アンケート「三食の摂取と規則正し	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食の重要性、栄養バランスと学習や運動能力の関係などを保健だよりに掲載 	B	<p>「朝食の摂取と食生活のバランス」については、保健便りではもとより、家庭科・保健の授業においても指導することにより、90%で目標値を達成</p>

			い生活」上位 評価割合90% 以上[保護者]			できた。保護者評 価目標値88%でもう 少しであった。
		感染症防止対策 ができている か。	評価アンケート「心身の健 康や安全に関 する十分な指 導」上位評価 割合92%以上 [生徒]	・保健委員が 校内放送及び 保健だよりを 通じて広報活 動を実施	B	保健委員の広報活 動により、93%で 目標値を達成する ことができた。
	安全管理 体制の確 立	施設は安全であ ると安心できる か。	評価アンケート「施設は整 備・点検され ていて安全」 上位評価割合 90%以上[生 徒]	・安全点検を 昨年度より早 期に行い、緊 急度の高い事 柄から改善を 図る	C	今年度は1・2学 期の早い時期に安 全点検を実施し、 事務と連携を図り 緊急度の高い所か ら改善したが、目 標値を下回った。 (86%)
		緊急時の対応が 確立されている か。	評価アンケート「緊急時の 安全確保のため の役割自覚」上 位評価割合が90% 以上[職員]	・職員研修と して「救急救 命講習会」を 実施 及び生徒理解 研修での個別 の対応の確認	C	例年通り、1学期 終業式後に職員・ 運動部活動生徒対 象に救急救命講習 会、また別日に生 徒理解研修を実施 したが、目標値を 下回った。(84.5 %)
環境教育	整理整頓 清掃の促進 環境教育 の充実	整理整頓及び清 掃を意識し、毎 日、掃除に取り 組んでいるか。	評価アンケート「掃除への 取組」上位評 価割合が92% 以上[生徒]	・委員会活動 による環境掃 除チェック及 び掃除時間以 外での清掃活 動の実施	B	毎学期に環境掃除 チェックを実施し たことにより、清 掃活動の意識が高 まり、目標値を上 回る(95%)ことが できた。
		環境問題を意識 した行動をと ることができ ているか。	・学校版ISOの目標を掲 げる。また、 照明・エアコン のスイッチを 利用してい ない時には必 ず切る。	・環境美化委 員だよりに、 環境資源問題 などを掲載し 、電気の無駄 使いの削減	A	教室等での学校版 ISO目標を掲げ ることができた。 環境美化委員が作 成する環境問題と する便りの発行も できた。
図書館 教育	読書セン ターとし ての機能 充実	読書習慣の確立	貸出冊数の増 加(目標値: 生徒一人あた りの年間貸出 冊数4.0冊以 上/年)	全職員の共通 認識の下での 「耽読の時間」 の設定	B	朝読書の廃止によ る読書離れを抑制 しようと、期間限 定で耽読の時間を 設定し、啓発に努 めたが、現時点で の生徒一人当たり の平均化しだし冊 数は3.75冊と目標 を下回った。読書 の時間を校内外で どう確保するかが 課題である。
		生徒、職員が利 用しやすい読書 センターとして の図書館づくり	図書館来館者 の増加 (目標値:年	・図書館報 (年2回発 行)、図書館	A	図書館来館者数は 1月末時点で4,900 人程度で、目標値

			間来館者3,000人以上)	だより（年8回発行）による読書啓発 ・図書館内の装飾や館外掲示による誘い ・上映会・企画展示等図書委員会活動の活性化と企画の充実		だけでなく昨年度の4,700人をも上回った。文化祭での企画や季節毎の装飾や掲示，27種に及ぶ企画展示，ライブラリーシネマなど，図書委員の生徒達，指導してきた司書教諭・学校司書の地道な活動の成果と考えている。懸案だった図書の日焼け問題の解決のため，ロールカーテンを16箇所設置し，蔵書の劣化防止を計った。
学習センターとしての機能充実	各部，各学年，各教科との連携	図書館利用授業時数の増加（目標値：年間50時間以上）	・計画的，組織的で蔵書バランスに配慮した選書の継続 ・部，学年，教科と連携した必要資料の事前準備 ・学級文庫設置 ・（分野ごとの）ブックリスト学級配布 ・レファレンス充実	A	授業利用時間は，目標値を超えただけでなく，昨年度の同時期までの利用時間40時間を大きく上回った。総合的な探究の時間の調べ学習への対応，国語科の読書感想文，美術科の読書感想画への対応，進路学習への対応などのため，県立図書館とも連携しながら図書資料を準備するなど利用者の視点に立った活動を行った成果と考える。学級文庫については，年4回の入れ替えを行い生徒の読書活動の推進に努めた。	
	生徒，職員が利用しやすい学習センターとしての図書館づくり	テーマ展示コーナーの充実（年間12回以上）	・考査前1週間の開館時間延長 ・図書館終礼 ・机配置の工夫 ・感染症予防	B	考査前は1時間程度の開館時間の延長を行い，生徒の学習に供した。車椅子が通りやすいよう机・椅子の配置を工夫した。机に置くパーティションの数を増やして隙間無く設置したり，1日2回の換気を徹底するなど，感染予防に努めた。	

	アーカイブズセンターとしての機能充実	東稜高校の歩みを物語る貴重な歴史資料の収集・保存・活用	・東稜高校アーカイブズを開館し、アーキビスト又は館長を置く。 ・東稜高校アーカイブズ規程の策定・周知	・関係部署との連携 ・アーカイブズイベントの開催 ・生徒図書委員会の活動の活性化	A	図書委員会では、日々の活動だけではなく、県立図書館等での調査を行った。また、文化祭での映像上映、展示などを活発に行った。とりわけ、東稜高校アーカイブズ展示「熊本の歴史資料を守った人々」については、新聞やテレビに大きく取り上げられ、熊本大学や熊本市からも高い評価を受けた。
--	--------------------	-----------------------------	---	--	---	---

4 学校関係者評価

- ・今年度は高校入試の出願者数が大きく増加している。現在行っている広報活動について一定の効果があると思う。
- ・生徒は以前に比べ授業により集中できていると思う。今年度より朝課外が廃止になったことでより授業へ意識が高まっているのではないかな。
- ・自学力の醸成については、やり方が分からない生徒も多いのではないかな。生徒の良い例を共有するなど工夫が必要である。
- ・海外企業からの企業進出もあることから、国際コースで中国語と韓国語を学べることを、もっとアピールすべきではないかな。

5 総合評価

【重点目標（5項目）評価】

- （1）生徒指導の充実（生活習慣の確立、規範意識の醸成、自己効力感の向上、職員間連携）

評価項目数計[8] A[3]B[3]C[2]D[0]

8項目中7項目で目標が達成できている。規範意識、情報モラル、自主的・主体的活動、生徒理解や支援の充実、情報モラル教育の充実が評価できる一方で、生活習慣習慣の確立、交通安全に関する取組で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「生活習慣の確立、規範意識の醸成：C、情報モラル教育の充実：A、交通安全教育の徹底および充実：C（生徒指導）」「主体的な生徒会活動の推進：B（生徒の自主性の涵養）」「生徒の理解及び支援の充実：A・A（生徒理解・教育相談・特別支援教育）」「生活習慣の確立：B、心身の健康や安全に関する十分な指導：B（健康教育）」

- （2）学習指導の充実（教科の専門性の向上、実践的授業力の向上、自学力の育成）

評価項目数計[2] A[0]B[1]C[1]D[0]

取組2項目では、自学力の醸成に関する取組で目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「授業を主体とした学力向上の取組：B、自学力の醸成：C（学力向上）」

- （3）進路指導の充実（系統的指導の充実、自己実現のための基盤づくり）

評価項目数計[2] A[0]B[1]C[1]D[0]

取組2項目では、オープンキャンパスへの参加や3年ぶりのインターンシップ実施などキャリア教育の充実が図れた一方で、進路目標の達成に関する取組が目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「キャリア教育の充実：B、進路目標の達成：C（キャリア教育（進路指導）」

- （4）学校環境の整備（物的環境の整備、人的環境の整備）

評価項目数計[10] A[2]B[6]C[2]D[0]

取組10項目中2項目（防災教育、環境教育の充実）で目標を達成できた一方で、安全管理体制の確立の取組で目標を到達できていない。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「学校改革の推進：B、開かれた学校づくり：B・B（学校経営）」「防災教育：A・B、学校運営協議会：B（地域連携・コミュニティ・スクールなど）」「安全管理体制の確立：C・C（健康教育

）」「整理整頓、清掃の促進：B、環境教育の充実：A（環境教育）」

（５）豊かな人間性の涵養（個性の伸長、多様性の理解と共生、読書の習慣化）

評価項目数計[11] A[5]B[4]C[2]D[0]

取組11項目中5項目で目標が達成できた。人としての在り方生き方に対する自覚の深化、命を大切にする心を育むで目標を達成できていない。

【関連小項目：評価】※（）内は大項目名

「人権尊重の精神に立った学校づくり：A、人としての在り方・生き方に対する自覚の深化：C（人権教育の推進）」「命を大切にする心を育む：C・B（いじめの防止等）」「国際コース：B、理数コース：A（コースの特色）」「読書センターとしての機能の充実：B・A、学習センターとしての機能の充実：A・B」「アーカイブズセンターとしての機能充実：A（図書館教育）」

6 次年度への課題・改善方策

評価項目全33項目中、目標が達成できたのは25項目（76%）、達成に至らなかったのは8項目（24%）であった。

今年度は出願者数を伸ばすことができた。今後、持続するためには学校魅力化が不可欠である。本校では、特に、これからの社会を見据え、新しい学習指導要領に基づいた探究学習とICTの活用を推進しており、さらに、ブラッシュアップしていくために、教科横断的な視点に立った授業改善や外部との連携を強化していきたい。

また、生徒の学力向上、進路実現のためには、自学力の醸成が必要である。そのために、効果的な学習法や工夫について、生徒の良い例の紹介など共有を図るとともに、大学や企業等と連携した体験的な取組や研究発表会等へ参加し、生徒の学習意欲や自己効力感を高めていきたい。

さらに、いじめのない安心して落ち着いた学校生活を保障するため、命を大切にする心を育む教育、人権教育の一層の充実を図る。具体的には、生徒については講演会やソーシャルスキルトレーニングの充実を図る。職員については、外部講師を招いての職員研修や職員間の情報共有の機会を一層充実させ、生徒指導や特別支援教育、教育相談等に関する職員のスキルアップを目指す。